避難時の心得、要配慮者への協力

■避難時の心得

正確な情報の収集と避難

テレビ・ラジオ等で最新の災害情報に注意しましょう。人的被害が迫った場合には、町役場から避難の呼びかけをする場合がありますので、すぐに避難してください。

非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は、必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。

事前に避難経路の確認を

避難場所までの経路は、事前に確認しておきましょう。避難場所へ向かう道は、狭い路地や壁ぎわ、川べりなどは避けましょう。

避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難場所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。

動きやすい服装での避難を

避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。

徒歩での避難が基本

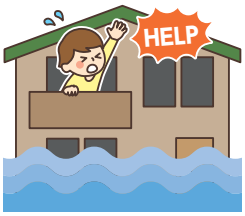
車での移動は、緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなりますので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。

安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。

万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



■要配慮者への協力（災害時）

子どもやお年寄り、体の不自由な人などは、避難に時間がかかります。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。また、日本語が不自由な外国人の避難にも協力しましょう。

高齢者、乳幼児、病人

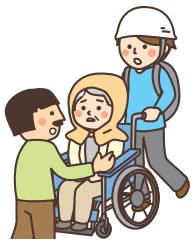
できる限り複数の人で対応しましょう。必要に応じて、ひも等の道具を用いて背負い、安全な場所へ避難しましょう。

目の不自由な方

誘導するときは、杖を持たず、ひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして半歩前をゆっくり歩きましょう。

耳の不自由な方には

話しかける場合は、口を大きく動かし、はっきり相手にわかりやすく伝えましょう。

からだの不自由な方には

階段での介助では2人以上が必要となるため、周りの人に協力を求めましょう。